



セベヌザム著
何禮之譯

民法論綱

卷六

3

和装本

711
850
6



保 11
850
6

東京大学
法学部
蔵書

民法論綱卷之六

何種禮之譯

下編

第四回 論親子

前章已ニ論セシ如ク父ハ其子ニ對シテ或ハ主人タルノ權アリ或ハ後見人タルノ權アリ
主人ノ名義アルニ由リ父ハ其子ノ自主人タルノ年齢ニ至ル迄勞作ヲ吩咐シ之ニ資リテ以テ已レカ利益トナスノ權利アリ此權利ハ其子ヲ教育シタル煩勞及其費用ヲ報酬スル所以ナレハ宜シク父タル者

ヲシテ其子ヲ教育スルハ以テ自己ノ利益ト為リ以テ自己ノ快樂ト為リ而シテ其利益快樂ハ復タ以テ將來其子ノ利益快樂タルヲ知得セシム可キヲ要ス父ハ又後見人ノ名義アルニ由リテ第三回ニ論セシ所ノ權利義務ヲ具有スルモノナリ

第一倫即チ主人ノ名義ニ於テハ專ラ其父ノ利益ニ就テ論シ第二倫即チ後見人ノ名義ニ於テハ更ニ子女ノ利益ニ就テ論スルカ故ニ父子ノ利益ハ互ニ抵觸スルカ如シト雖モ幸ニ父ニハ天性ノ慈愛ノ存スルアリテ其子ヲ鞠育教養スルノ際ニ方テ其權利ヲ

用ヒテ以テ己カ利益ヲ謀ルモノニアラス乃チ其子ノ利益ノ為メニ却テ己カ利益ヲ放擲シテ吝マサルモノアルニ因テ一身ニ主人後見人ノ二職ヲ兼任セシムルモ決シテ己カ利益ノ為メニ子女ノ利益ヲ侵蝕スルノ患アラサルナリ

皮膚ノ見ニ據テ之ヲ視ルニ父ニ慈愛ノ情アリテ子ニ孝敬ノ心アルハ天性ノ然ラシムル處ナレハ制法者必シモ父子ノ間ニ周旋セスシテ可ナルカ如キモノアリ然レモ是レ一時ノ淺慮ニ過キサル可シ何トナレハ父權ヲ節制シテ專暴ニ流レシメス子道ヲ維

持シテ孝敬ヲ失セサラシメンカ為メニ法律ヲ制定スルハ固ヨリ治圖ノ要務タレハナリ且ツ其法律ヲ制定スルニ方テモ父權ノ作用ニ由リテ其子ノ失フ所ノ利益ハ決シテ父ノ得ル所ノ利益ヨリモ重且大ナラシメサルヲ以テ通則ト為サ、ル可ラス

曾テ普魯西ニ於テ羅馬ノ制度ニ模擬シテ父母ニ與フルニ子女ノ年齢ニ拘ラス總テソノ婚姻ノ契約ヲ消除スルノ權利ヲ以テセシメテアリ是レ即チ前文ノ通則ヲ守ラサルノ一例ナリ

父權ノ一件ニ就テハ政學家ノ論皆ナ一偏ニ傾キテ一人ノ其中正ヲ得シモノナシ今其一ニヲ擧ンニ甲ノ論者ハ父權ハ宜シク羅馬人ノ如ク率意專斷ニ任シテ制限ス可ラスト乙ノ論者ハ全ク根柢ヨリ之ヲ滅絶スルニ如カスト又丙ノ理學家ハ子女ヲ將テ其父ノ任意ト眞頑不靈トニ委スルカラス國家ノ直管スル所トカシテ之ヲ教育スルニ以テ其古キ古キ巴爾達クレトト百兒社ノ制度ヲ援引シテ以テ其模範トセリ知ラスヤ此等ノ國民ハ大半奴隸ニシテ其自主ヲ得ルモノ極メテ僅々ナレハ能ク國家ノ公費ヲ

以テ一國自主民ノ子弟ヲ教育セシモノニテ固ヨリ
 今日ノ社會ニ採用ス可ラスシテ丙ノ論モ未ダ固執
 不通ヲ免レサルモノナリ
 果シテ人為ノ制度ニ由リ公費ヲ以テ一國ノ子弟ヲ
 教育セン乎父母ニ其費用ヲ分課スルニ甚ク困難ヲ
 覺フノミナラス父母ハ其子ニ衣食ヲ供給スルモ其
 勞作ヲ得テ已カ利益ト為スル能ハサルヲ以テ負荷
 スル所ノ義務ハ全ク其疾苦ト為リ慈愛ノ情漸ク疎
 薄ニナリテ遂ニ之ヲ視ル殆ト路人ニ異ナラサルニ
 至ラン且子弟タル者モ少年ノ際ニソノ終身ヲ委又

ヘキ職業ヲ肄習スルノ能ハサルヨリ遂ニ一生ヲ誤
 マルノ大害ヲ受クルニ至ラン
 抑、子弟ノ職業ヲ撰定スルニハ許多ノ委曲周折ヲ
 經サレハ能ハサルモノアリテ父母ノ外他ニ其希望
 心ノ赴ク所ヲ測知シ其才能ヲ鑑定シ其性情ヲ解知
 シテ當否成敗ヲ判決スルモノヲ得ヘカラサレハ此
 制度ニ據ル片ハ父母タルモノハ已ニ他日ノ侍養ヲ
 希望ス可ラサルヲ以テ當ニ慈愛ノ情親切ナラサル
 ノミナラス其子女ヲ視テ已カ骨肉ト認メス從テ幼
 勞拮据シテ子女ノ為メニ將來ノ福利ヲ預慮スル

ナク遂ニ子女ノ駸々トシテ其業ヲ興シ其家ヲ成ス
ノ美景ヲ覽ルノ樂趣ヲ得ス又子女ハ天性ノ慈愛ノ
為メニ督責セラレサルヨリ其勤勞ノ氣力自ラ衰弱
レテ一家ノ福利ヲ推シテ一國ノ繁昌ノ種子ト為ス
ニ足ラサレハ結局父子ノ天倫ヲ抹殺シ骨肉ノ親愛
ヲ毀傷シ夫婦ノ伉儷ヲ疎薄ナラシムル等殆ント名
状ス可ラサルノ禍害ヲ惹キ出サスンハアラサルナ
リ
結尾ノ論理トシテ茲ニ一言ヲ贅ヒン夫ノ自然ノ制
ニ任セテ職業ヲ撰定シ教育ノ費用ヲ出シ其方法ヲ

判決スル等ノ數事ヲ以テ全ク父母ニ委任スルハ即
チ全体ニ完備ヲ目的トスル所ノ實驗ヲ為サシムル
ト全一般ニシテ各人相競フテ勉勵ノ氣力ヲ起シ、凝
思竭慮機變ニ應レテ自ラ軌軸ヲ出セハ又以テ百事
ヲ進動發達セシムルノ結果ト為ルヘシ然ルニ之ニ
反レテ若シ百爾ノ物ヲ一模型ニ投レテ全一ノ形状
ヲ鑄造スルカ如ク全國ノ教育ヲ以テ法律ノ支配ニ
歸セシメ由テ百事全一ノ効果ヲ得ント欲セハ必ス
過誤失錯續々發出シテ適々一歩ノ進動ヲモ望ム可
ラサルニ至ラン

此制ノ謬舉タルハ世人ノ能ク知ル所ナレハ茲ニ縷縷其妄誕ヲ説破スルモ固トニ無益ナリトノ誹議ヲ受クヘシ然レモプラトノ此説公費ヲ以テ一國ノ子女ヲ教育スル制ハ今日ニ至リ猶ホ著名ナル理學者ヲ誘惑スルニ足リテルソー及ヘルウエチエスノ如キ大家ト雖モ亦之ニ陷溺スルヲ免レサレハ或ハ世人ノ之ニ左祖スルモ料リ難キヲ恐レテ為メニ一言ノ辨晰ヲ費スナリ

第五回 婚姻

婚姻ノ契約タルヤ如何ナル見點ヨリシテ之ヲ觀察

スルモ其社會無二ノ良圖タラサルナキハ是レ人類ヲ結合スル所ノ赤繩開化ヲ胚胎スル所ノ元素ニシテ實ニ必要缺ク可ラサル所ナレハナリ故ニ契約ノ見點ニ據リテ之ヲ論スレハ婚姻之制ハ特ニ婦女ヲシテ艱難辛苦ノ位地ヲ脱セシムル而已ナラス又一團聚ノ人民ヲ別テテ各個ノ家族ヲ作ラシメ或ハ一家ノ首長ヲ造為シ或ハ國士ノ義務權利ヲ習熟セシメ子孫ヲ慈愛スルノ情ヲ發シテ遂ニ人類ノ思意ヲ後世ニ傳遺シ全類ト憂樂ヲ共ニスル所ノ情緒ヲ増加スル等ノ事ヲ得セシムルモノナリ

茲ヲ以テ婚姻ニ生スル一切ノ利益ヲ料知セント欲セハ姑ラク人間社會ニ此制度ナキモノトシテ人類ノ境界ヲ假想ス可シ必ス大ニ悟得スル所アラシム今此貴重ナル契約ニ就テ所生ノ論題ヲ概列スルニ左ノ七條ヲ得タリ

第一題 何人ト何人トノ間ニ之ヲ准許スヘキヤ

第二題 此契約ノ存在スヘキ期限ハ果シテ幾許ノ久シキヲ要スルヤ

第三題 如何ナル約束ヲ用テ之ヲ結合スヘキヤ

第四題 年齢ニ制限アリヤ

第五題 配偶タルモノヲ撰定スルノ權ハ抑モ誰ニ屬ス可キヤ

第六題 幾人ノ間ニ之ヲ結合スヘキヤ

第七題 其儀式如何

第一題 何人ト何人ノ間ニ之ヲ准許スヘキヤ

今試ニ歷史上ニ散在スル所ノ實蹟ニ據テ此論題ヲ決スヘキ標準ト爲シ之ニ則テ以テ一定ノ規律ヲ作

為セント欲セハ其各國人民ノ風俗ニ異同アリテ彼
 此全ク相矛盾スルヨリ現ニ今日認メテ惡行トスル
 所ノ婚姻ヲ准許シ或ハ現ニ無瑕ト者做スヘキ配偶
 ヲ禁止セサルヘカラス其千態萬狀ナル適マ論者ノ
 方寸ヲ攪亂スルニ足ルノミ
 斷シテ之ヲ言フニ此一事ニ就テハ各國ノ人民皆ナ
 已カ制度風俗ヲ以テ所謂性法ノ理ニ根基スルモノ
 ト誇稱シ若シ他ノ已ニ異ナル者アルヲ見レハ必ス
 之ヲ穢行惡習ト做シテ互ニ相嫌惡セサルハアラサ
 ルナリ故ニ論者ハ各國ノ制度風俗ヲ通知セサルモ

ノト假想シ單ニ實利ノ原理ヲ根據トシテ果シテ何
 人ト何人ノ間ニハ婚姻ヲ准許シ何人ノ間ニハ之ヲ
 禁止セサル可ラサル等ノ道理ヲ推究ス可シ
 試ニ一家ノ中ヲ見ヨ其家族ナルモノハ長幼、剛柔女男
 及ヒ尊卑ノ天倫全ク各殊ナルモノヨリ成ルカ故ニ
 其中ニ就テ何人ト何人ハ婚姻ノ結合ヲ禁止セサル
 ヘカラサルノ確理ヲ了得スヘシ
 一目ノ下直ニ婚姻ヲ禁止スヘキ確理ノ瞭然タルハ
 即チ父、祖父或ハ父ノ權義ヲ代理スル伯叔父ノ如キ
 モノニシテ若シ之カ為ニ婚姻ノ制限ヲ立テサルキ

ハ其尊長タルノ推カヲ濫用シテ少女女、孫ノ意向ノ如何ヲ問ハス專ラ威迫壓制ニ仗リ暴ニ已カ配偶タルヘキノ契約ヲ結ハシムヘキヲ以テ其尊長タルノ推カ益有用ナルニ從テ益之ヲ濫用スヘキノ端緒ヲ檢束セサル可ラサルナリ

且欺ノ如ク尊長ノ威迫ヨリ成ル所ノ婚姻ハ所謂敗常逆倫ノ惡行ニシテ幸ニ之ヲ犯觸スルノ人許多ナラサレハ從テ其關係モ亦重大ナラスト雖モ然レ欺ク婚姻ノ制限ヲ立テ、濫リニ配偶スルヲ禁止スル所以ハ彼ノ風儀禮節ヲ破テ野合ノ苟成ニ流ル

所ノ惡弊ヲ防制スル道理ニ出ルモノナリ抑、髻髻ノ時ヨリ一字ノ下ニ生長スル近親至戚ハ其懇誼ノ情特ニ深篤ニシテ從テ契約ヲ為スノ機會常ニ斷ヘサルヲ以テ動モスレハ一時無心ノ親昵ヨリシテ遂ニ肉慾ノ誘惑スル所ト為ルノ弊害ヲ免サレハ須ク此間ニ決シテ超ユヘカラサルノ一牆壁ヲ築カサルヘカラサルナリ蓋シ家族ハ倫序ノ中心ニシテ平和安寧ノ懋ヲ所、車馬風塵ニ營々タル神魂ヲ靜養スルノ樂地タルヘキニ若シ範籬ノ之ヲ防閑スル一微カリセハ却テ不安不穩ノ淵藪ト為テ彼此相爭

ノノ心情ヲ懷キ肉慾ノ沸騰擾亂ニ堪ヘサルニ至ラ
 ン苟モ然ルキハ互ニ猜疑ノ念ヲ懷テ信實ノ心ナク
 骨肉ノ親愛ハ泯滅シテ憎惡怨恨ノ萃マル所トナリ
 終ニ寒心スヘキノ景況ニ到ルハ必然ナリ夫レ女子
 ノ廉貞ナルハ男子ノ心ヲ誘掖シテ婚姻ヲ請求セシ
 ムル處ノ一大引力ナルモ若シ男女ノ別ナク禮節ノ
 檢束ナキ時ハ則チ操守ノ完缺ヲ知ル可カラサルヨ
 リ故ラニ其婚期ヲ蹉跎セシムヘク斯ノ如キハ少女
 ヲ教育スルニ方テ最モ謹慎ヲ加フヘキ所ナルニ特
 ニ陷阱ヲ設ケテ其墜落スルヲ俟ツニ異ナラサルナリ

親屬相婚スルニ四項ノ弊害アリ
 第一害 敵視ノ心ヲ生スルノ害 已ニ婚姻スルヤ
 其婚姻セシモノト否ラサルモノトノ間ニ許多ノ
 嫌忌ヲ生シテ此心ヲ懷カシムルハ必然ナリ
 第二害 婚期ニ障碍ヲナスノ害 男子ニ婚姻スヘ
 キ情願アリト雖モ女子ノ廉貞ヲ信スル甚々淺薄
 ナルカ故ニ自ラ一般ノ女子ヲシテ婚姻ノ良縁ヲ
 失シ偕老ノ福機ヲ誤ラシムルハ必然ナリ
 第三害 家政解弛スルノ害 尊卑ノ倫序錯亂シテ
 命令スヘキ者及ヒ順従スヘキ者互ニ其地位ヲ顛

倒スルニ至ルヘシ又饒ヒ其害ノ故ニ到ラサルモ

幼者ノ利益ヲ保護スルカ為メニ執行スヘキ族長

(或ハ其地位ニ立ツ者)ノ權威ヲ滅殺スルヲ以テ遂

ニ其家政ヲシテ懈弛セシムルハ必然ナリ

第四害 形体上ノ害 未タ婚期ニ到ラスシテ情慾

ヲ恣ニシ之カ為メニ氣力ノ發達ヲ損傷スル一實

ニ歎シトセス

禁婚ノ表 律文ニ於テハ女子ノ所禁ヲモ掲ケ

載セサル可ラス然ルニ之ヲ致ニ略

男子ノ要ル可ラサル者

第一 父祖ノ妻、即チ其孀婦 第一害、第三害、第四害

第二 女子及孫女 第二害、第三害、第四害

第三 伯叔母 第二害、第三害、第四害

第四 伯叔父ノ妻、即チ其孀婦 第一害、第三害、第四害

第五 侄女 第二害、第三害、第四害

第六 姉妹 第二害、第三害

第七 妻ノ所出ノ女 四害皆具

第八 妻ノ母 第一害

第九 子孫ノ妻、即チ其孀婦 第一害

第十 母ノ前夫ノ女、及父ノ

先妻ノ女

第四害

亡父ノ姉妹ト婚姻スルハ之ヲ准許スヘキ乎抑亦之ヲ禁止スヘキ乎

曰ク此理論ハ既ニ可非ノ二端ニ分レ各一理アツテ而モ未タ決セサル處ナリ其之ヲ非トスルモノハ姉妹ノ生存中互ニ敵視ノ心ヲ懷クヲ恐ル、ニ在リ而シテ之ヲ可トスル者ハソノ子女ノ利益ヲ謀ルニ在リ其言ニ云ク若シ不幸ニシテ其母ヲ失フアアルモ伯叔母アリテ以テ直ニ繼母ト為ルヲ得レハ子女ノ康福ハ何ソ之ニ加フルモノアラシヤ實ニ繼母ト孤

子トノ兩立セサル敵視ノ心ヲ滅殺スルハ此至親ノ續絃ニ如クモノアラサルナリト然レハ敵視ノ患ヲ避シカ爲メニハ妻タル者ハ其姉妹ヲシテ猥ニ夫家ニ出入セシメサルノ權利ヲ得可シ若シ妻タルモノ、既ニ已レノ姉妹ヲ夫家ニ親狎セシムルヲ欲セサルニ至テハ其夫タルモノ何ヲ以テ之ト親交スルノ念慮ヲ起ス可ケンヤ

兄弟ノ孀婦ト婚姻スルハ准許ス可キニ屬スルヤ否ヤ

此問題ニ於テモ亦可非ノ二論アリテ其理ハ毫モ前

文ニ異ナルヲナシ然レ氏前文ニ比スレハ共ニ一層
輕微ナリトス

之ヲ可トスル論ニ曰ク我カ兄弟ノ我カ妻ニ於ルヤ
交情疎遠ニシテ殆ト路人ニ異ナルヲ無ケレハ時ト
シテ我カ妻ト相交ルアルモ我カ允諾ヲ經ルニ由ラ
サルハナシ然レハ兄弟ノ我妻ニ交ルヲ以テ何ソ之
ヲ敵視ノ心ヲ懷クヘキハ釁隙ト為スヘケレヤ是レ
兄弟ノ孀婦ヲ娶ルモ決シテ其害ナキ所以ナリト然
ルニ反對論者ノ説ニ曰ク繼父ノ子女ニ於ケルト繼
母ノ子女ニ於ケルトハ固ヨリ全視スヘカラサルモ

ノアリ抑繼母ニシテ能ク前妻ノ子女ヲ愛育スルモ
ノハ女子ノ賢行ニ屬シテ常ニ多ク得難キモ繼父ト
ル者ハ常ニ之ヲ保護シテ怠ラス能ク後見ノ義務ヲ
竭スモノ世ニ歎シトセス是レ蓋シ一ハ溫柔人ニ支
配サレ一ハ剛健人ヲ支配シ其稟性彼此相反スルヨ
リ斯ク各異ノ効果ヲ生スルナルヘシ殊ニ伯叔父ハ
天倫上巳ニ甥侄タル者ノ保護主タルナレハ若シ他
人ノ繼父タルモノ其子女ヲ凌虐スルヲアルヤ則チ
伯叔父ノ保護ニ依頼シテ其苦難ヲ免ルヘク又繼父
ニシテ能ク其子女ヲ愛育センニ尚ホ伯叔父アリテ

民法論綱 卷之六

付印

之ヲ看護スルヲ得ハ子女ノ康福ハ實ニ莫大ナリ
ト謂ハサル可カラス然ルニ伯叔父ヲシテ其母ノ後
夫タラシムルハ其子女ハ乃チ此等ノ外援ヲ得テ
其利益ヲ享ク可カラス是レ伯叔父ヲシテ繼父ノ位
地ヲ充タシム可ラサル所以ナリ○以上可非ノ二論
ハ各其理アリト雖モ一モ重大ナル利害ニ關係セサ
レハ姑ラク權衡ヲ持平スル者ト者做シ而メ一方ニ
自由ニ任スルノ利益ヲ加ユル時ハ其權衡ハ必ス之
ヲ要ルノ一點ニ傾クヘシ
近親至戚ノ間ノ婚姻ヲ禁止スヘキ道理ハ正ニ前文

ニ論述スル所ノ如シ然ルニ允膏ナル道義學者ハ制
法ノ要點ニ就テ更ニ利害ノ所在ヲ考究スルヲナク
直チニ斷案ヲ下シテ親戚相婚スルハ性理ニ乖戾ス
ルヲ以テ之ヲ禁止セリト而シテ其之ヲ禁止スヘキ所
以ニ至テハ漠然トシテ敢テ之ヲ明言スルナシ
故ニ此道義學者ノ言ヲ以テ未タ人民ノ之ヲ行フ
ヲ禁止スル確乎タル理論ト為スニ足ラス何トナレ
ハ果シテ近親ノ婚姻ハ全ク性理ニ乖戾スルモノト
為サハ一人トシテ之ヲ欲セサレハ之ヲ禁止スルニ
由シ無ク其法律ハ全ク無用ニ屬スヘキノ之ニ反

民法論綱 卷之六 可成藏版

民法論綱 卷之六 何 蒲 木

シテ至戚相婚スルモ全ク性理ニ乖戾スルヲ無シト
モハ之ヲ禁止スルノ道理ハ自ラ出現セサル可シ且
彼ノ道義學者ノ之ヲ禁止スル所ノ根據ハ唯タ之ヲ
性理ノ欲セサルニ委スルカ故ニ若シ反對ノ想像ヲ
起シテ之ヲ論スルキハ忽チ其持論ヲ説破セラルヘ
シ加之若シ一切ノ事物ヲ舉テ一ニ之ヲ性理(即チ愛
欲ノ發動)ニ委スルヲ當然ナリトセハ即チ之ヲ性理
ノ決斷スル所ニ任セテ敢テ檢束ヲ加ヘサルモ亦不
可アルヲ无カル可シ已ニ性理ノ欲セサルヲ以テ婚
姻ヲ禁止スル原由ト為スルハ若シ性理ニ於テ之ヲ

欲スルキハ之ヲ禁止セスシテ其自由ニ任ス可シト
スルヤ省スヤ性理ノ本体ハ至テ冷淡ナルモノニシ
テ其惡ム所ノ慮ルニ足ラサルハ猶ホ其好ム所ノ慮
ルニ足ラサルカ如キモノアルヲ
理ニ於テ婚姻ヲ禁止セサル可ラサル親戚ノ間ニ於
テ偶然愛慕ノ情ヲ發起スルハ洵トニ稀有ノ事ト謂
フ可シ何トナンハ愛慕ノ情ハ不慮ニ新奇ノ事ニ避
逅シテ其心神ヲ感駭スルニアラサレハ發起シ能ハ
ス故ニ文人詩客カ常ニ司愛ノ神ヲ形容スルニ其眼
ヲ閉チテ戀慕スル人ノ瑕玼ヲ視ルヲ無ク手ニ弓箭

民法論綱 卷之六 可 紙 藏 版

民法論綱 卷之六 可紙藏版

ヲ持チテ其心ヲ射ルニ比喻スル所以ナリ○然ラハ
則チ愛慕ノ機未タ動カサル幼齡ノ時ヨリ既ニ全居
相親ニ終日相戯ル者ノ間ニ於テ慣習常トナリテ決
シテ愛慕ノ情ヲ發起スヘキ時機ナク終身幼時ノ觀
ヲ改メサレハ恰モ水流ノ滔々トシテ日ニ深大ヲ致
シテ江河ヲ爲スモ遂ニ其方向ヲ改メサルカ如キニ
異ナラサルモノアルヘシ
此ニ據テ之ヲ見ル片ハ性理ハ自ラ能ク實利ノ原理
ニ符合スルモノニシテ其相悖ラサルヤ知ルヘキナ
リ然レモ若シ法律ノ之ヲ禁止スルノ无ク公義ノ之

ヲ譴責スルノ微カリセハ親戚ノ中ト雖モ或ハ愛慕
ノ情ヲ發起シテ婚姻ヲ希望スル無キヲ保テ難シ故
ニ制法者ハ唯性理ノニニ依頼シテ以テ満足ス可ラ
サルナリ
希臘人種カ埃及ノ王位ヲ踐ミシ頃ニハ國君ハ常ニ
ソノ姉妹ト婚姻セリ是レ其臣民或ハ外國人ト婚姻
ヲ為シテ王室ノ系統ヲ亂スノ弊害ヲ避ケンカ爲メ
ナルヘシ蓋シ王室ニ在テハ兄弟姉妹相婚スルト雖
モ私人ニ於ケルカ如キ不利ヲ生スルノ無ク且王室
ノ富貴ハ中等ノ人民ノ得テ堪ユル所ニアラサルヲ

民法論綱 卷之六 可紙藏版

民法論綱 卷之六 第百一十號

以テ自ラ高踏獨立ノ地位ニ居ラサル可カラサレハ
ナリ
所謂政術ニ於テ輓今猶ホ斯ノ如キ婚姻ノ類例アル
ヲ見タリ即チ今日ノ葡萄牙女主ハ上古ノ埃及ノ風
俗ニ模擬シテソノ親姪タル臣民ヲ以テ贅婿ト為シ
而ノ亂倫ノ醜聲ヲ掩シカ為メニ乃チ羅馬教ノ君臣
牙葡萄ヲシテ熟鍊ナル化學者羅馬ニ請ヒ其婚姻ノ不
正ナルヲ溶化シテ無色純一ノモノト為サシメシカ
新教ノ國民英米ニ至テハ獨リルテリヤン派ノ此制
限ヲ寬弛セルノミニシテ其他ハ決シテ斯ノ如キ練

藥場ニ入ルヲ許サ、ルヲ以テ伯叔母ヲ娶ルヘキノ
資格ヲ有スルモノナシ
此等ノ婚姻ノ害ハ特ニソノ之ヲ結ヒ日本ノ人ニ
止マルニアラス全ク一國ノ人民ニ惡例ヲ垂示スル
モノナリ何トナレハ若シ一人ニ限テ之ヲ准許スル
片ハ之ヲ得サル者ニ於テハ此制禁ヲ着テ壓制ナリ
ト為サ、ルヲ得ス譬ヘハ衆人ニ物ヲ荷ハシムルニ
若シ其中ニ倅免ノモノアルヲ見レハ他ノ之ヲ荷フ
モノ、心ニ於テ一層其物ノ重キヲ覺フアルカ如シ
或人曰ク同血交婚スル片ハ人種漸ク下ツテ賤劣不

民法論綱 卷之六 第百一十號

省トナルヲ猶ホ牲畜ニ於ルト異ナラス故ニ人類モ亦異種交合ノ法ヲ用ヒサル可ラスト若シ夫レ自由無限ノ社會ニシテ骨肉相婚スルモ恬トシテ之ヲ怪マサルノ風俗アルニ於テハ此論題ヲ拈出シ得ルノ機會アル可シト雖モ苟モ倫理全ク滅絶セサル所ニ於テハ唯其不善ニ迷執スルヲ説破スルノミニテ充分其弊害ヲ杜絶スルニ足ル可シ況ンヤ之ヲ主張セシ處ノ議論ノ妄誕乖謬ナル更ニ善良ノ道理ノ根掘トナスヘキモノナキニ於テヤ

第二題 婚姻ノ時間 離婚ノ可非ヲ論ス

若シ法律ニ依テ婚姻ノ契約ヲ守ルヘキ時間ヲ定ムルヲ無ク他ノ一般ノ契約ニ於ルカ如ク其長短ノ程度ヲシテ單ニ各自ノ欲スル處ニ任セ之ヲ伸縮セシムル時ハ殆ト名状ス可ラサルノ結局ニ到リ大ニ今日ノ行儀ニ異ナル所ノ風俗ニ推移スヘキハ必然ナリ

婚姻ノ契約ニ於ルヤ或ハ男子ノ目的トスル所ハ一時勃發スル情欲ヲ飽カシムルニ在リテ婚姻ヲ將テ唯其方便ト為シ之ニ由テ所生ノ利益ヲ受用シテ其不利不便ヲ避逃セント欲スルモ料ル可ラスト雖モ

民法論綱 卷之六

女子ニ在テハ終身ノ大事ニシテ之ニ由テ畢生釋然
スヘカラサルノ責任ヲ生スルモノナリ者ヨ女子一
タヒ有夫ノ身ト為ルヤ曾テ幾時ナラスシテ胎孕ヲ
受ケ數月ノ間寢食ヲ安ンセス而ノ臨期ニ至レハ恐
ルヘキノ痛苦ヲ經テ纒カニ呱呱ノ聲ヲ聞クヤ又母
儀ヲ以テ子女ヲ鞠育撫養セサルヲ得ス噫女子ノ任
責實ニ重大ナリト謂ハサル可ケンヤ○斯ノ如ク婚
姻ハ男子ハ或ハ由テ以テ快樂ヲ求ムルノ方便タル
ヘシト雖モ女子ニ於テハ終身苦難ノ端緒ト為ルヘ
キカ故ニ夫婦ノ契約ヲ結フニ先ツテ預メ良人タル

者ヲシテ其弱質ノ身ヲ保護シ含乳ノ嬰孩ヲ撫養ス
ヘキ旨ヲ保証セシメサルヘカラス若シ然ラサレハ
榮々トシテ世ヲ畢リ蓋棺ノ後ニ至ラサレハ終ニ一
身ノ窮苦ヲ免レサル可シ故ニ婚姻ノ盟約ヲ為スニ
臨テ女子ハ其夫タル者ニ對シテ我ハ吾カ身ヲ汝ニ
委子タリ、汝ハ須ラク我カ弱質ノ保護者トナリテ我
レト汝ノ恩愛ノ結果 子女ヲ撫養スヘキ餘財ヲ準備
スヘシト謂フ可キナリ蓋シ此盟約ノ言ハ即チ共和
唱隨ノ元始ニシテ佞令夫婦ノ間纒カニ一子ヲ懷ク
ニ過キサルモ此期ハ延テ數十ノ歲月ヲ亘ラサル可

民法論綱 卷之六 可成載版

民法論綱 卷之六

何氏藏板

ラス然ルヲ況ヤ生育ノ數多ナルニ從テ其恩愛益深
篤ニシテ歲月ノ推移スルニ從テ情好益親密ニナレ
ハ其初メ豫定シタル時間ハ既ニ冥々ノ中ニ消失ス
ルモ懷裡ニ呱呱ノ聲アリ膝下ニ含飴ノ児アレハ更
ニ夫婦ノ快樂義務ヲ生シテ遂ニ偕老ノ契約トナラ
サルナキニ於テヲヤ
妻タル者己ニ妙齡ヲ過テ復タ子女ノ生育ヲ希圖ス
ヘキ機ナク、夫タル者モ亦其子女ヲ扶持スヘキノ方
策ヲ立テ互ニ夫婦タルノ義務相終ルニ於テハ夫婦
ノ契約ヲシテ解散セシムヘキ者トスル耶噫何ソ其

然ラン、夫數十ノ春秋同シク一字ノ下ニ住ミ朝夕相
對シテ憂樂ヲ俱ニセシモノハ其伉儷ノ篤キ情緒ノ
深キ決シテ生存ノ間斷割ス可ラス誰カ一朝驟ニ分
離ノ念ヲ起スモノアランヤ夫婦俱ニ欲セサルハ必
然ナリ然ルヲ況ヤ又其恩愛ヲ纏綿固結スル所ノ公
點ト為リテ新ニ快樂希望ノ心情ヲ發生セシムル所
ノ子女アリ之ヲ教育撫養スルニハ父嚴母慈ノ俱ニ
必須ナル實ニ其一ヲ缺ク可ラサルモノアルニ於テ
ヲヤ故ニ婚姻ノ時間ハ之ヲ終身ノ義務ト為サシム
ルヲ以テ通則トセサルヘカラサルナリ且ツ夫レ已ニ

民法論綱 卷之六 何氏藏板

女子ヲシテ其貴重ナル利益ヲ損セサラシメンカ為
 メニ此契約ヲ以テ終身不易ノモノト為スノ情理ニ
 適當ナリトスルニ却テ女子ニ比スレハ更ニ一層經驗
 ニ富ミテ父親トナリ後見人トナルヘキノ男子ヲシテ
 女子ヨリモ其責任ノ輕薄ナル者ト為シテ可ナラン
 ヤ
 加之配耦ノ時間ヲ限定セサルハ大ニ女子ノ為メニ
 ソノ利益ノ係ル所ト為ルヘシ何トナレハ妻女ノ其
 夫ニ順從スルニ方テヤ經過スル所ノ歲月懷孕哺乳
 等ノ劬勞一トシテソノ容貌ヲ憔悴シ其媚態ヲ損減

スルノ原由タラサルハ無ク徒テ男子ハ血氣正ニ旺
 感ナルニ女子ハ蒲柳先シ凋衰スルノ嘆アルヲ免レ
 サレハ若シ果シテ伉儷ノ恩愛ヲ以テ妙齡冶容ノ感
 時ニ過キサルモノト為サハ男子ハ敢テ舊婦ヲ棄テ
 新婦ヲ娶ルニ難カラサルモ女子ハ一夫ニ厭棄セラ
 ル、後再ヒ新婿ヲ求ムルヲ能ハサルカ故ニ今婚姻
 ヲ契約スルニ方テ男女互ニ將來ノ境遇ヲ慮リ我ハ
 吾カ身ヲ舉ケテ汝ニ委託セリ汝決シテ我カ允諾ヲ
 經ニシテ我ヲ厭棄ス可ラストノ一句ヲ預シメ盟約
 ノ中ニ挿入セサル可カラズ欺ノ如クナレハ嚴格ト

ル盟約始テ一男一女ノ間ニ成立シ以テ終身ノ福利
ヲ享用シ得可キナリ
此ニ據テ之ヲ見ル片ハ婚姻ハ終身ヲ以テ其期トス
ルノ最モ能ク事物ノ道理ニ適中スルハ營ニ家族ノ
景況ト需要ニ相應スルノミナラス又私人各自ノ利
益人類生々ノ道ニ至ルマテ一トシテ其宜シキヲ得
サルモノアラサルナリ故ニ假令社會ニ於テ別ニ婚
姻ノ法律ヲ制定スルヲ無ク之ヲ尋常普通ノ契約ト
同視シテ各人ノ隨意ニ任セ政府ハ唯其正否ヲ監ミ
ルニ在ラシムルモ其之ヲ爲ス人ニ於テハ必ス之ヲ

以テ終身ノ契約ト定ムヘキハ固ヨリ論ヲ待タサル
所ナリ是レ終身ノ契約ハ即チ男女相互ノ利益ニシ
テ且男子ハ自ラ女子ヲ愛敬シ女子ハ愛敬ニ加フル
ニ將來ノ預圖ヲ以テシ而メ俱ニ父母タルノ慎慮慈
愛アリテ此等ノ歸向スル所一トシテ婚姻ノ約期ヲ
悠久不易ノモノト爲サ、ル無キヲ以テナリ
然レモ若シ女子ヲシテ盟約ノ中ニ於テ「仮令他日ニ
至テ我ト汝ト反目シテ相憎ム」猶ホ今日ノ爾我相
愛スルカ如キアリト雖モ俱ニ離別スヘキ權利ハ決
シテナカル可シトノ一句ヲ加ヘシムルヲアラハ一

民法論綱 卷之六 婚姻可成後

氏法論綱 卷之六 何氏藏板

目ノ下直ニソノ道理ニ反シテ狂愚ヲ極ムルヲ着
破レ何人ヲ問ハス之ヲ粗暴ノ盟約亂心者ノ立言ニ
レテ實ニ天理人道ノ許容ス可ラサル所ト思想セス
シハアラサルナリ
女子ト雖モ斯ノ如キ狂愚反理ノ盟約ヲ要求スルモ
ノナレ況ヤ男子ニレテ誰カ之ヲ要求スルモノアラ
シヤ嗚呼已ニ婚姻ヲ約スル所ノ男女俱ニ之ヲ欲セ
サルニ尚ホ法律ヲ以テ夫婦ヲ壓制シ強テ終身離ル
可ラサルノ義務ト為サシムルハ實ニ奇異ト謂ハサ
ルヲ得ス之ヲ譬フルニ法律ハ男女ノ間ニ介入シ其

愛情正ニ冷淡ニレテ他ノ樂境ヲ求メ去ントスル處
ヲ迎撃テ曰ク「今汝等ニ戒メ告クル所アリ汝等男女
ハ素ト康福ヲ得ン」ヲ希フヲ夫婦ノ契約ヲ為シタ
ルニアラスヤ是レ汝等ハ自ラ求メテ終身解脫ス可
ラサルノ囚獄ニ投セルナリ故ニ自今以後我ニ法律ハ
汝等カ憂愁ノ聲ニ聳然タルノミナラス復令汝等互
ニ其身ノ桎梏ヲ破リ去ラント欲スルモ我ハ復タ汝
等ヲシテ之ヲ解離スル」ヲ許サスト謂フモノ、如
シ
夫愛情ノ凝結セル目的ヲ信シテ之ヲ完璧無瑕ノモ

氏法論綱 卷之六 何氏藏板

ノト為シ血氣ノ偶然發動スルモノヲ視テ之ヲ恒久
不易ノモノト認ムルモノアルハ畢竟壯年少艾ノ色
慾ニ誘惑セラレ前後ヲ顧ミサルモノ、痴態トシテ
猶ホ之ヲ寛恕スヘキモ決シテ彼ノ頭髮已ニ霜ヲ帶
ヒタル法律ニ熟練セル制法者ノ迷惑スヘキノ妄想
如意ト者做ス可カラサルナリ若シ果シテ制法者ハ
此血氣ヲ信シテ恒久不易ノモノト認ムルト為ルモ
將タ何ヲカ苦ミテ一人トシテ之ヲ用ユルヲ好マ
ザルノ權利ヲ除キ去ルヲ謀慮セサルヤ離婚ヲ許
○或曰ク否ラス制法者ハ預シメ男女ノ中ニ失操破

節ノ行或ハ反目相憎ムノ事アルヲ謀慮スレハ今日
ノ愛情ノ劇烈ナルハ即チ他日風波ヲ生シテ互ニ相
憎惡スルノ心意モ亦夕齊シク劇烈ナランヲ憂懼
シ全ク局外ニ居テ冷淡不偏ノ意見ヲ以テ夫婦ノ盟
約ヲシテ之ヲ恒久不易ノモノト制定シ仮令當初結
合セシ所ノ愛情一變シテ相厭フニ至テモ復タ之ヲ
渝ルヲ許容セサルナリト然ラハ茲ニ事ヲ舉ケ
テ問ハンニ若シ今新ニ法律ヲ制定シテ凡テ會社ノ
社員後見人、監守者及同僚タルモノハ一トタヒ其契
約ヲ結合セシ以上ハ終身之ヲ解脱ス可ラスト為サ

ニハ人民見テ之ヲ至愚ノ法律トナスニ非レハ必
ス之ヲ苛虐ノ法律ナリト謂ハシ夫レ男子ナルモノ
ハ女子ノ夥伴ニアラスヤ同僚ニアラスヤ監守者後
見人ニアラスヤ而シテ此等ノ夥伴ナリ同僚ナリ監守
者ナリ後見人ナリ皆ナ良人一身ノ兼任ニ属スルモ
ノナリ然ルニ開化ノ邦國ニ限テ良人ヲシテ此數事
ニ兼任セシメ以テ終身不易ノモノタラサルヲ得ス
トハ實ニ謂レ无キノ甚シキモノト謂ハサル可シヤ
心ニ醜惡スル所ノ人ニ制御セラレテ終身其羈轡ヲ
脱スル能ハサルカ如キハ之ヲ奴隸ノ境界ト謂ハサ

ルヲ得サルナリ然ルニ奴隸ニ於ケルモ壓制以テ其
箕帚ニ奉侍セシムルカ如キ憂苦慘憺ノ状態ニ苦シ
マシム可ラサルモノアルニ於テヤ論者或ハ夫婦
ノ束縛ハ彼此交々一ナリト言フモノアリト雖モ唯
彼此同一ナルカ故ニ一層ノ憂苦ハ加倍シテ二層ノ
憂苦ト為ラスンハアラサルナリ
婚姻ノ一事ハ正ニ人類ヲシテメノ勃發セシ愛情ヲ
満足シ欲火ヲ鎮靜セシムルノ方便ナルヲ以テ之ニ
許多ノ束縛ヲ加フルハ適マ以テソノ歡樂ヲ妨クル
ニ當リ之カ為メニ大害ヲ生スルニ至ルハ必然ナリ

民法論綱

去之六

三

何氏

故ニカノ婚姻ノ契約ヲ以テ終身解ク可ラサルモノ
 ト為スカ如キハ何ソ人類ヲ威喝シ却テ逡巡之ヲ結
 フノ念頭ヲ絶タシムルニ異ナランヤ特ニ婚姻ノ一
 事ノミナラス自餘ノ國家ニ竭スヘキ義務或ハ服事
 ノ契約等ニ於テモ一タヒ之ニ服従スル時ハ終身免
 ル可ラサルモノト制定セシニハ恰モ制禁ヲ設ケテ
 人ノ之ニ従事スルヲ防止スルモノニ異ナラサルノ
 効果ヲ生スベキナリヤ
 此論ヲ結フニ臨テ再ヒ茲ニ一言ヲ加ヘテ以テ離婚
 結婚ノ事容易ナラサルノ制度ト為リテハ失操ノ行

益多ク中簿ノ醜益聞ク可ラサルニ至ルヲ證示セン
 トス夫レ夫婦ノ中ニテ其一人ノ死亡スルアルニア
 ラサレハ婚姻ノ契約ヲ免ルヘカラスト制定スルハ
 ハ憂苦ノ獄底ニ沈ム者ハ窮厄ノ極マル處何等ノ罪
 惡カ謀ル可ラサランヤ何等ノ不義ニカ誘惑セラレ
 サランヤ實ニ名状ス可ラサル所ノ弊害ヲ生スルハ
 必然ナリ○且此等ノ弊害ハ冥々ノ中ニ流行スルモ
 ノナルヲ以テ人ノ耳目ニ發覺セラレ、モノハ僅々
 數フ可シト雖モ其世間ニ知ラレサルノ罪惡ニ至テ
 ハ多々枚擧ニ遑アラサルヘシ○此時機ニ於テ其所

民法論綱

去之六

何氏

犯ハ罪惡ハ實犯ニ在ラスシテ多クハ苟且怠慢ニ起ル所ノ虚犯ニ在ルヘシ蓋シ虚犯ノ罪タル固ヨリ豫メ謀テ而メ之ヲ犯スモノニアラス知ラス識ラス已レノ義務ヲ怠ルヨリシテ其罪ヲ得ルモノナレハソノ心術全ク頽壞セサル者ト雖モ容易ニ之ヲ犯サ、ルヲ保チ難シ試ニ男子ノ意ニ滿タサルノ嫡妻ト其鍾愛スル處ノ外寵トヲ將テ全一ノ苦界ニ在ラシメヨソノ男子ノ嫡妻ヲ遇スルハ其外寵ヲ愛恤スルカ如ク親切丁寧ナルヲ得ヘキヤ否ヤ或難シテ曰ク姑ラク喋々ノ辯ヲ止メヨ果シテ婚姻

ノ契約ヲ解クヘキモノト制定セシニハ數多ノ障碍アリ請フ茲ニ其目ヲ開列セシ記者宜シク之ニ答辯ヲ下スヘシ

駁論之一 離婚ヲ許ストト為サハ夫婦俱ニ已カ地位ヲ以テ恒久不易ノモノト視ズ男子ハ常ニ眼ヲ外ニ注キテ艶冶ナル新婦ヲ覓メ之ニ換ヘテ以テ已カ情欲ヲ飽カシメント欲シ女子モ亦其夫ニ齊シク男子ノ妍醜貧富ヲ比較シテ更ニ良婚ヲ得ントヲ謀ル可シ果シテ斯ノ如キニ至テハ終身ノ局面ヲト定スヘキ所ノ貴重ナル契約ハ適以テ永久交互ノ不安不

民法論綱 卷之六 何氏義

穩ヲ醸成スルノ原由タルニ過キサル可シ
答辨之一 此害ハ婚姻ヲ解ク可ラサルモノト制定
スルモ決シテ免ル可ラサル處ニシテ唯其名目ヲ異
ニスルニ因テ之ヲ了知セサルノ之夫レ論者ノ所駁
ハ伉儷ノ情已ニ衰ヘシ時ヲ言フニ非スヤ若シ愛情
仄死スルモ尚ホ離婚スルノ能ハサルモノナリトセ
ハ男子ハ新婦ヲ迎ヘスシテ竊カニ外寵ヲ畜ハヘ女
子ハ再嫁ヲ要セスシテ暗ニ情郎ヲ得ルニ至ル可シ
爰ニ至テ道德上ノ義務ハ之ヲ道ルニ容易ニシテ
其禁令モ亦之ヲ避クルニ難ヤニアラス抑モ義務禁

令ノ過嚴ナルハ男女ノ操守ヲ保固セント欲シテ却
テ之ヲ激シテ破裂セシムルノ弊アリ是レ束縛益緊
急ナレハ之ヲ脱セント欲スルノ火氣モ從テ益劇烈
ナルヲ以テナリ今實際ノ事物ニ就テ人ノ性情ヲ試
察スルニ若シ茲ニ一ノ障碍物ヲ生シテ一タヒ其心
思ニ感觸スルノアルヤ念々之ニ闘テ克ンノ之
レ思フテ瞬間モ其方寸ヲ離レサレハ障碍物アルハ
適以テ其勢焰ヲ增長セシムルノ具タルニ過キサル
ヘシ是レ固ヨリ閱歷ノ事實ニシテ敢テ臆測ノ説ニ
アラサルナリ之レニ反シテ男女ニ離婚ノ自由ヲ得

民法論綱 卷之六 何氏義

セシノン乎守操ノ正ヲ破毀シ不良ノ心ヲ誘掖スル
ノ機ハ必ス之ヲ終身ノ束縛ト為スノ時ヨリモ却テ
鮮少ナル可シ且公然タル離婚ノ現像ハ自ラ相増ス
ヘシト雖モ彼ノ陽ニ夫婦ノ名アリテ陰ニ反目シテ
仇讐ノ思ヲ為ス所ノ實相ハ大ニ減少スヘキナリ
答辯之二〇前ノ答辯ハ其弊害ニ就テ論セシノミ今
更ニ一歩ヲ進メテ其利益ヲ陳述セン〇今夫レ離婚
ノ法律ヲ制定スルキハ男女俱ニ不義失行ノ事アレ
ハ忽チ離別セラル、一ヲ其心ニ銘刻スルカ故ニ致
タトシテ原ト夫婦ノ契約ヲ助成セシ所ノ愛敬ヲ修

メテ怠ラス夫ハ妻ノ性情ヲ酌量シ妻ハ夫ノ意思ヲ
奉承シテ互ニ我意野心ヲ放擲シ専ラ琴瑟ノ和合ヲ
圖期スルヨリ遂ニ夫婦ノ間ハ常ニ愛敬謹慎ノ凝集
セル和氣祥霽ノ駿驟スル所ト為リテ彼ノ婚姻ヲ結
フニ先ツテ歡心ヲ求メシ所ノ行為ハ已ニ婚姻ヲ結
ヒシ後ニ至テモ猶ホ底止セサレハ自ラ之ヲ保續シ
テ互ニ衰替スルナキヲ得可シ
答辯之三 既ニ離婚ノ法律アレハ冠弁ノ期ニ達シ
タル少年ノソノ父兄ノ妄意貪心ニ籠絡セラレテ其
内心ニ欲セサル所ノ配偶ヲモ苟且ニ定ムルノ弊害

民法論綱 卷之六 既可裁裁

ヲ免ル可キナリ何ントナレハ此法アルニ由テ其婚
 姻ヲ約定スルニ方テ預シメ夫婦相和セサルハ離
 別ノ患アルヲ了知シ男女俱ニ未夕盟約ヲ結ハサ
 ル時先ツ已カ良心ニ詢テ審カニ康福ノ由テ出ツヘ
 キ實因ヲ窮究シソノ配偶タルヘキモノ、年齢教育
 風采性情等ノ果シテ自身ニ匹敵スヘキヤ如何ヲ省
 慮シ而メ後チ其可否ヲ決定スレハ絶エテ之ヲ草卒
 ニ付スル丁無ク徒テ世ノ恒言ニ謂フ所ノ「其貨財ト
 婚姻シテ其人ト婚姻セ」ストノ「學習ヲ掃攘」得可シ
 是レ恰モ家屋ヲ築クニ先ツ其基礎ノ堅脆ヲ試ミ之

ニ由テソノ持スルヤ否ヤヲ鑒定スルニ齊シク實
 ニ缺ク可ラサルノ要圖ナラスヤ、
 駁論之二 離婚ヲ許スハ男女俱ニ婚姻ノ大義ヲ
 見テ一場雲夢ノ交遊ト做セハ一家ノ利害ヲ慮ル親
 切ナラサルノミナラス又經濟ノ道ニ注意セスレテ
 浪費濫用之レ任スルノ惡弊ヲ生ス可シ
 答辯 夫ノ商業ノ組合ナル者ノ如キ即チ一時ノ交
 會ニシテ亦論者ノ憂フル所ノ惡弊ヲ生スヘキモノ
 ナリ然レモ其實際ヲ觀ルニ商業ノ組合ニ於ルト雖
 モ經濟ノ道ヲ守ラステ破産ニ及ヒシモノ極メテ

氏
法
論
綱
卷
之
六
三
何
日
精
木

稀少ナリ然ルヲ況ヤ已ニ夫婦ノ爰倫アル以上ハ仮
令其婚姻ハ解クヘキモノトスルモ其間ニハ自ラ商
業ノ組合ノ得テ有ス可ラサルノ綱常アリテ相存ス
ルニ於テヲヤ、何ヲカ綱常ト云フ、曰ク男女ノ公有ニ
屬スル處ノ子女ヲ愛育スルノ至情ニシテ即チ此愛
情ハ益父母ノ伉儷ヲ篤クスル所ノ膠漆ト為ルモノ
ナリ之ニ反シテ離婚スヘカラサル夫婦ノ情態ヲ察
スルニ恰モ曠夫怨婦ノ一室ニ住ムカ如ク家政綱ヲ
失シ經濟道ヲ得サルハ固ヨリカノ商業ノ組合ト曰
フ同シテ語ル可カラサルモノアリ是レ他ナレ一旦

其心ニ厭忌スル所アリテ偕老ノ念已ニ斷絶スト雖
モ一生夫婦タルノ羈絆ヲ脱ス可ラサルヨリ怨望咨
嗟ノ念絶エス胸中ニ填チ之カ為メニ子女ノ公愛ヲ
以テ繁維スル所ノ情誼モ漸ク渙散スレハソノ將來
ノ康福ヲ培養スヘキ處ノ教育撫養ノ如キ都テ夫婦
ノ公益公益トナルヘキ前途ヲ希望スルノ心滅絶シ
テ唯各自ニ目前ノ快樂ニ苟安スルノミ又更ニ老後
ノ憂樂ヲ預慮スルニ違アラシヤ此等ノ惡弊ハ都テ
離婚ヲ許サルノ理論ニ出ルモノニシテ其法制ハ
適以テ閨門ノ政ヲ擾亂シ夫婦ノ義務ヲ怠棄ヒシム

法
論
綱
卷
之
六
三
何
日
精
木

ルニ足ルノミ意夫婦ノ情誼既ニ竭キテ其結局破産
覆家ノ禍ヲ釀成セサルモノアラニヤ萬其理ナキ可
ナリ○故ニ若シ法律ニ於テ離婚ノ事ヲ以テ人民ノ
自由ニ任スルモノト為サハ夫婦ノ間其心一タヒ厭
忌ヲ生スルマ忽チ婚約ヲ解テ分飛スルノ自由ヲ得
可シ若シ離婚ヲ許サ、ルモノトセシ耶其心已ニ離
ル、モ其名ノ離ル可カラサルヲ以テ遂ニ一家ヲ蕩
破スルノ禍害ヲ蒙ラサルナカルヘシ
殊ニ離婚ノ道普子ク開ケ其免許ヲ得ル尤モ容易ナ
ル時ハ獨リ濫費浪用ノ惡弊ヲ長スル丁無キノミナ

ラス却テ之ヲ防止スルニ足ル可キナリ何トナレハ
夫婦ノ間互ニ愛敬ヲ失ヒサラン丁ニ注意スレハ其
心兢々トシテ戒慎シ唯長ク配耦タラン丁ニノミニ
歸向スルヲ以テ曾テ家産ヲ蕩盡スル等ノ不經濟ヲ
行フニ違アラサレハナリ○夫レ一家ノ經濟ハ夫婦
ノ公利公益ヲ以テ之ヲ幹旋スルニアラサレハ乃チ
十全ノ功果ヲ得ヘカラサルカ故ニ夫婦齊シク經濟
ノ道ニ黽勉シテ唯其巧拙ノミ之レ顧ミレハ若シ其
理財ノ術ヲシテ其當ヲ失ヒシムル丁ナキトキハ縱
ヒ自余ノ小過失アルモ之カ為メニ寛恕スル丁ヲ得

民法論綱 卷之六 何故哉

氏論綱 卷之六 何氏藏板

ヘキナリ加之離婚ノ事相生スルニ方テ若シ其中ノ一人品行甚タ宜シカラス曾テ經濟ニ注意セサルニ因テ茲ニ至ルモノナル時ハ其離別サレタルモノハ一身ニ醜名ヲ負ハサルヲ得ス從テ再ヒ利益アルノ婚姻ヲ約スルモノ甚タ歎カルヘシ是レ此外刺ノ作用ニ於テモ又離婚ノ法アルハ即チ家政ニ拮据セシムルノ一端タリトス

駁論之三 然レモ離婚ノ事ヲ許ス時ハ之一由テ剛者子男ノ性情ヲ誘掖シノノ暴威ヲ恃ミ恣ニ柔者子女ヲ虐待シテ以テ離婚ノ承諾ヲ要取スルニ至ラン

答辨 此一題ハ論者ノ言頗フル其理アリテ制法者ノ宜シク熟慮審考シテ法律ヲ制定スヘキ所ナリ然リト雖モ幸ニレテ此惡弊ヲ防クヘキ一術ノ存スルアリ何ソヤ若シ剛者ノ柔者ヲ虐待力罷ルニ依テ離婚ヲ要求スルコトアレハ法律ノ作用ニ依テ柔者ニ自由ヲ得セシメ以テ剛者ノ專恣ヲ制遏スルモノナリ果シテ然ルキハ剛者即チ夫主タル者ハ其剛健ノ力ニ仗リテ柔者ヲ半馬視スルノ惡行ヲ為ス能ハサレハ假令斷絃ノ意アリテ舊妻ヲ去ラント欲スルモ到底温順ノ處置ニ頼テ之ヲ得ルノ外他ニ策略アラ

氏論綱 卷之六 何氏藏板

民法論綱 卷之六 三十一 信 補 林

サルヲ以テ唯其行為ノ虐待カ僣ニ涉ラントテ恐レ
其念意ノ切着ナルニ從テ益其妻ヲ善視シ若シ其身
財ニ富ムモノハ終身ノ衣食ヲ支給シテ以テ舊妻ヲ
扶持シ或ハ其過ヲ補シカ為メニ之カ新夫タル者ヲ
選擇シテ其所ヲ得セシメサルモノ非ルナリ
駁論ノ四 子女ノ利害ニ就テ之ヲ論スルニ法律ニ
於テ父母ノ離別ヲ許スモノトスルハ端的其子女
タルモノハ其依頼スル所ヲ失ヒ遂ニ生養撫育ノ路
ニ窮スヘキナリ
答辯 父母ノ中若シ其一人死亡スルアラハ子女ハ

頼テ以テソノ生育撫養ヲ受クハキ處無ル可シ然レ
氏之カ為メニ其成長ヲ妨ケシヲ聞カス然ラハ則
チ生前ノ離婚ニ因テ子女ノ苦難トナル所ハ決シテ
彼ノ怙恃ヲ喪フカ如キノ慘憺ノ甚シキニ至ラサル
ハ必然ナリ况ヤ法律ノ制定アリテ固ヨリ子女ノ利
害ヲ豫慮シ若シ不幸ニシテ父母ノ離別ニ達フ氏ハ
男子ヲ以テ父ニ責付シ女子ヲ以テ母ニ責付スレハ
子女ハ常ニソノ撫育ヲ得ルニ缺ク可ラサルノ一父
或ハ一母ノ膝下ニ生長スルヲ得可キナリ故ニ之ヲ
カノ父母ノ没後ニ於テ繼父繼母ノ毒手ニ罹リ朝夕

民法論綱 卷之六 臨河紙藏版

仇視セララル、ノ苦難ニ陥ルモノト比較スルハ其
遭遇ノ懸隔スル嘗ニ霄壤ノ差ニ止ラサルモノアリ
就中幼女ノ其母ヲ失シテ繼母ノ苛虐ニ苦シムニ至
テハ實ニ慘怛視ルニ忍ヒサル所ナリ是ニ據テ之ヲ
見レハ離婚ヲ許容セル法律アルキハ女子ハ慈母ノ
撫養ニ歸シ男子ハ嚴父ノ教育ニ屬スルヲ以テ其父
母ノ間ニ風波ヲ生シテ一家斷ハス相聞クカ如キモ
ノニ於ケルヨリモ却テ其教育撫養ノ多分ヲ受用ス
ルハ固ヨリ言フ俟サル所ナリ故ニ子女ノ利害ヲ以
テ果シテ離婚ヲ禁止スヘキ根理アリトスルハ何

ソ夫婦ノ中一人ノ死亡スルニ方テ其再婚ヲ禁止セ
サルヤ然ラサレハ父母死後ノ再婚ニ生スル處ノ子
女ノ苦難タルハソノ生前ノ再婚ニ於ケルヨリモ更
ニ甚シキモノアリ
離婚ヲ許ス可キ道理ハ上文畧辨論スル所ノ如シ然
リト雖モ已結ノ婚姻ヲ解放スルハ固ヨリ人生ノ大
事ニシテ敢テ之ヲ苟且ニ付ス可ラサレハ須ラク嚴
格ノ規律ヲ設為シ其作用ヲシテ一ハ以テ任意輕率
ノ行アルヲ抑制シ一ハ以テ一定ノ時間ヲ設ケテ其
人ヲシテ更ニ思慮ヲ竭スノ餘地ヲ有セシムルヲ要

民法論綱 卷之六

何氏藏板

ス○且離婚ノ丁アルニ於テハ必ス宰官其事ニ干預
シテ夫婦ノ間ニ介入シ而メ男子ハ實ニ虐待力壓ヲ
以テ女子ノ承諾ヲ要取セシモノニアラサルヤヲ審
究シ又離婚ヲ請求セシ日ヨリ全ク離婚スルノ時ニ
至ル迄務メテ其裁許ヲ遷延シテ二人ノ心ヲ挽回ス
ル機ト為スヲ要ス
然レハ離婚ノ事ハ各論者ノ意見各異ニシテ未タ一
決ニ到ラサル所ノ論題ナリ是レ畢竟各人唯ソノ目
撃シタル事實ノ良否ニ依リ或ハ一個ノ利害ニ就テ
ソノ得失ヲ論スルカ故ニ其可否今日ニ至テ尚木判

然タラナル所以ナリ
英國ノ法律ニ據ルキハ若シ其妻ニ姦淫ノ行アレハ
以テ其婚姻ヲ解放スルヲ得ヘシ然レハ此離婚ノ
准許ヲ得ルニ許多ノ裁判所ヲ經由セサル可ラス又
議院ノ決定ヲ得ント欲スルニハ少クモ五百磅ノ費
用ヲ要セサルヲ得ス是故ニ此離婚ノ准許ヲ得ヘキ
モノハ實ニ僅々タル上等ノ社會ニ過キサルノミ
蕪格蘭ニ於テハ男女ヲ論セス一方ノ姦淫ヲ以テ直
ニ離婚ノ事由ト為スヲ得ヘシ故ニ離婚ハ英國ニ
比スレハ一層容易ニシテ而モ寛和ナルモノ、如シ

民法論綱 卷之六 何氏藏板

民法論綱 卷之六 三六 何氏藏

ト雖モ離婚ノ後ニ至リテカノ淫行ヲ犯セル者ハソ
ノ姦通セシ處ノ人ト婚姻スルヲ許サスコノ一點ニ
於テ頗ル其嚴厲ナルヲ覺フ

瑞典ノ法律ニ於テモ亦夫婦ノ中男女ヲ論セス淫行
アレハ以テ其婚姻ヲ解クコトヲ得ヘシ故ニ夫婦預シ
メ相約シテ其婦或ハ其夫ヨリ淫行アルコトヲ告訴ス
ル時ハ忽チ離婚ノ准許ヲ得ルノ弊アリ丁抹ノ法律
モ亦大同小異ナリト雖モ唯夫婦ノ間ニ果シテ全謀
ノ騙局ニアラサルノ証據ヲ要スルノ異アリ
字國フレデリック王制定ノ民法ニ據レハ夫婦ノ約諾

ヲ以テ婚姻ヲ解クコトヲ得可シ而シテ又離婚ノ後獨
居一年ノ久シキニ到ル時ハ再ヒ夫婦タルヲ得可シ
然レモ此法律ニ於テ一年ノ時日ヲ經過セシ後ニ至テ
復合ノ事ヲ准許スルハ未タ離婚ヲ許サルニ先チ一
年若シクハ幾月ノ間之ヲ遷延シテ以テ思慮ヲ盡サ
シムルノ規則ヲ設クルノ更ニ佳良ナルニ若カサルナリ
瑞西ノビ子フハ州ニ於テモ姦淫ヲ以テ解婚ノ原
由ト為スノミナラス更ニ夫婦ノ性質ノ和合セサル
ヲ以テ離婚ヲ為スコトヲ得ヘシ加之妻タル者夫家ヲ
去テ潛カニ朋友親戚ノ家ニ在ルカ如キモ亦法律ノ

民法論綱 卷之六 三六 何氏藏

民法論綱
卷之六
三
何
日
藏
本

作用ニ依テ離婚ヲ要求スルノ原由ト為ルヲ得タ
リ然レモ都テ離婚ノ事アルニ方テハ諸寺院ニ於テ
其事由ヲ衆人ニ公告スルノ規則アレハ此公告ハ即
チ一種ノ懲戒法ニシテ衆人ノ鄙斥スル所ト為リ大
ニ民心ヲ警戒スルニ足レリ故ニ離婚ノ數甚タ鮮少
ナリト云フ

佛蘭西ニ於テハ新律制定以來離婚ノ事ヲ以テ之ヲ
夫婦ノ情願ニ任セシカ僅々二年ノ間離婚ノ多數ナ
ル巴里一府ニシテ五百乃至六百ヲ計ルニ至レリ蓋
シ離婚ノ斯ク多數ナルハ畢竟舊律ノ禁ヲ解キシニ

因テ一時ニ輻輳セシモノナレハ之ヲ尋常平均ノ數
ト看做ス可ラス
古ヘヨリ准許ヲ與フ所ノ邦國ニ於ケルモ離婚ハ恒
ニ非常ノ舉ニ屬シテ其數ノ寥々トシテ多ク見サル
所ナリ然ルニ今日ニ方テ制法者ハ容易ニ離婚ヲ許
サ、ルヲ以テ其理アリトセハ私人ニ於テモ亦離婚
ノ免許ヲ得ヘキモ之ヲ要求スルヲ屑シトセサルノ
道理アル可シ此事法律ヲ以テ之ヲ禁スルモ其實ヲ
防クヲ能ハス又之ヲ許スモ其濫ヲ患フルヲ要セス
故ニ法律ヲ以テ離婚ヲ禁止スルハ猶ホ政府ヲ以テ

民法論綱
卷之六
何
日
藏
本

民法論綱 卷之六 三三 何氏藏板

私人ノ利害ヲ熟知スル丁却テ私人自身ニ勝レリト
シテ之ヲ判断スルカ如ク其法律ハ常ニ効用ナキノ
ミナラス通以テ人民ノ苦害ト為ルヘキナリ○今日
文明社會ニ於テハ男子ニ虐待セラレ、所ノ女子ヲ
シテ親ラ之ヲ裁判所ニ訴ヘシメ以テ離別ノ免許ヲ
得セシム是レ離別ハ固ヨリ雙方ノ願請ニ由ルモノ
ナルモ俱ニ他ニ再婚スル丁ヲ許サレサルハ抑夫婦
ノ同居ヲ分チテ有夫ノ寡婦有妻ノ鰥夫タラシムル
ノ理趣或ハ男女ノ歡樂ヲ奪フテ以テ刑ニ代ユルノ
微意ナルヘシ然ルニソノ虐待セラレシ者モ之ヲ虐

待シタル者モ俱ニ全一ノ苦難ヲ蒙ムルカ如キニ至
テハ外面稍公平ニ似タルモ内實ハ豈ニ偏頗ノ法律
タルニアラサルヲ得シヤ嗚呼輿論ノ何ノ剛者ニ寛
ニレテ柔者ニ嚴ナル一ニ欺ニ至ルヤ

第三題 何等ノ約束ニ依ルヘキヤ

此問題ハ唯實利ノ原理ニ基テ多衆ノ便宜トナル約
束ヲ為サシムル丁ヲ考究スルノ一事ニ歸スルノミ
故ニ法律ニ於テハ此約束ハ夫婦タルヘキ男女ニ委
シテ各自ニソノ最モ便宜トスル所ノモノヲ為サシ
ム可シ約メ之ヲ言ヘハ一定ノ變則殊格ヲ除クノ外

民法論綱 卷之六 三三 何氏藏板

ハ都テ本人ノ志意ニ任シテ之ヲ束縛セサルニ在リ
 第一ノ約束 妻タル者ハ緩急アルハ時ニ臨テ公義
 ノ裁判ニ控訴スルヲ得ルノ外ハ百事主夫ノ命令ニ
 順従スルヲ要ス是レ男子ハ自己ノ利益ニ就テハ其
 妻ノ主人ト為リ妻ノ利益ニ就テハソノ後見人ト為
 リテ妙齡ヨリ白髮ニ至ル迄飲食居所ヲ全クシ終始
 相伴フモノナレハ此數十年ヲ經過スル間ニハ時ト
 シテ二人ノ情意相反セサル丁ヲ保チ難キ力故ニ一家
 ノ平和ヲ維持セント欲セハ特ニ其中ノ一人ヲ推シ
 テ尊長ト為シ之ニ治權ヲ與ヘテソノ爭論ヲ未萌ニ

防止シ或ハ已發ノモノヲ裁判セサル可ラス然リ而
 シテ能ク此治者ノ地位ニ當ルヘキハ乃チ男子ニア
 ラサルヨリハ敢テ能ハサルモノアリ何ソヤ男子ハ
 剛健ノ質ヲ有シテ其權ヲ施スニ堪當スルヲ以テナ
 リ若シ否ラス女子ヲシテ其地位ニ居ラシメンカ男
 子ハ必ス其管理ニ從フヲ欲セスシテ百事ニ抵抗
 シ一日モ家中ノ平和ヲ得ヘカラサル可シ況ニヤ男
 子カ一生ノ經歷ヲ見ルニ博ク世ニ交リ物ニ接スル
 ノ故ヲ以テ經驗措置臨機ノ計略ニ富ミ其才識ノ卓
 絶スル固ヨリ弱質女子ノ大ニ及ハサル所ノモノア

民法論綱 卷之六 附 比 藏 林

ルニ於テヤ但ニ或ハ變例ノアルニ依リテ一概ニ
論斷ス可ラサルモノアルモ普通ノ法律ニ於テハ之
ヲ以テ定則トナサ、ル可カラス
前文ノ論旨中ニ「緩急アルノ時ニ臨テハ公義ノ裁判
ニ控訴シ得ヘシト」ノ一句ヲ加ヘタル所以ハ是レ身
心俱ニ剛強ナル男子ニ與フルニ霸虐者ノ権カヲ以
テニ而シテ彼ノ故ヲニ懇篤ナル保護ニ沐浴ス可キノ
弱質柔性ヲシテ其奴隷ト為リ唯々諾々以テ其身ヲ
終ルノ苦痛ヲ嘗メシメサラニカ為メナリ○古代ノ
法制ヲ稽フニ概シテ女子ノ利益ヲ度外ニ置キ更ニ

之ヲ顧ミサルモ居多ナリ就中羅馬ノ婚姻律ノ如キ
ハ單ニ剛者ノ為メニ制定ヒシ者ニシテ其状恰モ百
獸ノ獅子ト獲物ヲ争フカ如ク柔者ハ決シテ一物ヲ
モ得可ラサルナリ然リト雖モ若シ之ニ反シ其要領
ヲ得ス徒ニ公義寛仁ノ虚稱ニ眩惑サレ漫ニ女子ニ
制限無キノ全等ヲ得ヒシムル時ハ其弊ヤ特ニ陷阱
ヲ設ケテ女子ノ其中ニ墜落スルヲ俟ツニ異ラサル
モノアラシ故ニ法律ニ依テ女子ニ制限ヲキノ自由
ヲ占得ヒシメ之ニ由テ良人ノ意ヲ奉承スルノ義務
ヲ解放スルカ如キハ是レ女子ノ權利ヲ強盛ニセシ

民法論綱 卷之六 附 比 藏 林

ト欲シテ却テ之ヲ衰微セシムルモノナリ
 然ルヲ以テ男子主宰ノ位ヲ占ムル時ハ治權已ノ掌
 握ニ歸スルヲ満足ニ中心自ラ平和ニシテ敢テ
 妬忌ノ情ヲ生セサレハ必ス其治權ノ一部ヲ柔者ニ
 領與シ夫婦互ニ之ヲ公用ス可シ若シ此分賦ヲ顛倒
 スル氏ハ柔者全權ヲ執テ以テ剛者ヲ管理スルカ故
 ニ剛者ハ常ニ之ニ抵抗シテ其願指ニ従ハサルノミ
 ナラス又已レノ屈辱ヲ憤恨シテ大ニ執權者ヲ仇視
 シ中心專ラ其操持スル所ノ權柄ヲ攘奪セシト欲ス
 ルヨリ始終風波ヲ起シテ危險ヲ醸サ、ルヒノ非ル

ナリ
 第二ノ約束 家政ノ料理ハ宜シク之ヲ男子ノ一手
 ニ操持セシムヘシ是レ一家ノ主宰ノ權利ニ直接セ
 ル關係ナルヲ以テ固ヨリ男子ニ屬スヘキモノナレ
 ハナリ況ンヤ一家ノ數口ヲ扶持シテ飢寒ノ患ナカ
 ラシムルハ常ニ男子ノ功勞ニ出ルニ於テヤ
 第三ノ約束 資財ハ宜シク夫婦ノ公用スル所ト為
 シテ齊シク全一ノ福利ニ沐浴セシムヘキナリ蓋シ
 此約束ヲ設クル所以ハ第一ハ全等ノ理ヲ維持セシ
 カ爲メ第二ハ男女ニ全一ノ利益ヲ與ヘテ以テ相俱

民法論綱 卷之六 第五ノ約束

一家ノ繁榮ヲ希圖セシメシカ為メナリ然レモ妻タル者ハソノ夫ノ命令ニ順従スヘキ綱常アルニ由テ此ノ全等ノ權ニ於テ亦多少ノ斟酌ヲ加ヘサル可カラス

制法者ハ人民ノ營業處世ノ摸樣及ヒ財産ノ性質ニ應シテ許多ノ節目ヲ細別セサル可カラス然レモ其論題ハ爰ニ不急ナルヲ以テ之ヲ他編ニ譲ルヘシ
第四ノ約束 有夫ノ女ハ須ラク貞節ノ道ヲ固守スヘシ
○此姦淫穢行ヲ以テ罪犯トスル所以ノ原理ハ刑法ノ區域ニ屬スルヲ以テ亦之ヲ茲ニ論述ヒサル

第五ノ約束 有室ノ男子モ亦タ其妻ニ對シテ宜シク貞實ヲ竭スヘシ而シテ男子ノ穢行ヲ以テ罪犯トスル所以ノ原理モ亦齊シク刑法ノ區域ニ屬セリトス蓋シ此全一ノ姦淫穢行ニシテ男女ノ間ニ稍輕重ノ別アルカ如シト雖モ之ヲ以テ俱ニ法律上ノ義務ト為スニ至テハ亦固ヨリ充分ノ原理アリテ存スルナリ

第四題 年齢ニ制限アルヤ
男女幾歳ニ至テ始メテ婚姻スルノ權利ヲ得ヘキヤ

民法論綱 卷之六 第五ノ約束

曰ク男女ヲ論セス都テ此契約ノ貴重ナル所以ヲ會
 得ス可キ年齢ニ達セサルノ間ハ決レテ之ヲ准許ス
 可ラス就中離婚ヲ許サル處ノ法制アル邦國ニ於
 テハ更ニ其禁令ヲ嚴密精細ニセサルヲ得ス○夫レ
 婚姻ノ了タル青年少艾ノ人一旦ノ輕躁疎忽ヨリ遂
 ニ終身挽回シ能ハサルモノト為ルカ故ニ此契約
 後弊ヲ防カンカ為メニハ假令如何ナル規矩制限ヲ
 設クルモ決レテ煩苛ニ涉ルノ患ナカル可シ然ラハ
 則チ男女俱ニ此權利ヲ得ヘキ年齢ハ必クモ自己ノ
 財産ヲ料理シ得ルノ時期ニ達セル後ニアラサルヲ

得ス實ニ法律上ニ於テハ十金ノ土地ヲモ恣ニ賣買
 スヘカラサルノ未成人ヲレテ其一身ヲ委子テ畢生
 ノ契約ヲ結ハシムルカ如キハ豈ニ愚ノ至リナラス
 ヤ決レテ其理ナキ所ナリ

第五題

配耦ヲ撰定スルノ權ハ抑モ誰ニ

屬スヘキヤ

男女其配耦ヲ撰定スルハ抑誰ノ任ニ屬スルヤ此問
 題ヲ粘出スルハ恰モ婚姻ノ契約ヲ以テ其本人ノ鑒
 識ニ任セスレテ別ニ撰定ヲ司トルノ人アルカ如シ
 是レ事實ニ背馳シテ決レテ行ハレサル所ナリ

故ニ法律ニ於テハ必ス撰定ノ權ヲ以テ之ヲ其父母
 ニ任ス可ラストス蓋シ父母ハ此權ヲ施スニ方テ緊
 要ナル二事ノ其子女ニ若カサルモノアレハナリ何
 ソヤ曰ク配耦ト定ムヘキモノ、情實ニ熟通セサル
 一ナリ本人ノ正鵠トスル所ノ志意ヲ識得セサルニ
 ナリ夫レ父子ハ天倫ノ至親アリト雖モ全一ノ事物
 ヲ見聞セス全一ノ情緒ニ感觸セス各自其意趣ヲ殊
 ニスルカ故ニ從テ其利益トスル所ノ亦一樣ナラサ
 ルハ少壯ノ血氣正ニ旺盛ナルニ方テハ通シテ愛慕
 ノ一物ヲ以テ男女ノ大欲トナスモ漸ク暮齡ニ傾ク

ニ從テ稀薄ナレハ子女ハ偏ニ愛慕ノ一物ノ為メニ
 凡百ノ利益ヲ抛擲シテ吝マズ財產ノ豊貧ヲ論セサ
 ルヲ常トスルモ父母ハ之ヲ以テ吃緊ノ大事ト做シ
 ソレカ為メニ他事ヲ顧ミサルモノアリテ全ク反對
 スルニ由ルモノナリ然レモ今父子ノ心事ヲ問フニ
 子女ノ希フ所モ歡樂ノ一點ニ歸シ父母ノ希フ所モ
 亦其子女ノ歡樂トナルヘキ一點ニ歸セサルモノナ
 レ是レ其歸一ニシテ而シテ其途ノ異ナル所以ハ他ナ
 レ父母ノ眼ハ只其外面ニ止マルヲ以テナリ
 父母ノ意ニ満タサル所ノ贅婿ヲ迎へ或ハ媳婦ヲ娶

リテ之ト居食ヲ共ニスルハ甚タ歎ラザルモノニシテ固ヨリ美事ニアラサルナリ然レ氏強テ子女ノ愛情ヲ割キテソノ欲セサル所ノ配偶ニ屈就セシムルノ悲痛憤恨ニ比較スル片ハ自ラ輕重ノ差別アルヲ知ルヘキナリ○父母ノ意ニ滿タサルト子女ノ悲痛スルトハ果シテ長短アラストスル乎試ニ父母子女ノ壽算ヲ計較セヨ豈ニ桑榆ニ近クモノ、意ニ滿タサルヲ以テ正ニ春秋ニ富ムモノ、康福ヲ放擲セシムルノ理アラシヤ是レ父母ノ權ニ伏リテ以テ其子女ノ婚姻ヲ妨クルノ弊ヲ說破スル所以ニシテ就中

父母ノ名義アルヲ以テ護身ノ符ト為シ力壓威逼シテ以テ女子ニソノ嫌惡スル所ノ夫婿ト婚姻セシムルカ如キノ梟獍ノ徒ニ至テハ此權利ヲ剝奪スレヲ以テ更ニ最モ緊要ナリトス然リト雖モ婚姻ノ吉凶ハ大ニ父母ノ幹旋ヲ仰クモノナレハ男子ノ之ニ依頼スルハ猶ホ淺鮮ナルモ女子ハ全ク之ニ依頼セサルヲ得サルカ故ニ父母ノ怠慢ニ由テ若シ此權利ヲ施用セス又子女ノ性情ヲ矯正セスシテソノ正鵠ヲ誤ラシメ或ハ配偶ノ撰定ニ注意セス之ヲ偶然ノ機ニ付スルカ如キハ則チソノ

子女ニ代テ輕躁ノ責ヲ受クヘキモノハ獨リ父母ニ
アラスレテソレ誰レカ之ニ任スルモノソ
之ヲ要スルニ已ニ父母ノ掌握ヨリ其子女ニ威逼シ
テ所愛ノ配偶ヲ棄逐シ或ハ愛セサル所ノ配偶ニ屈
就セシムルノ權利ヲ剝奪スルハ固ヨリ當然ナリト
雖モ其婚姻ノ吉凶ヲ商議シ其婚期ノ到否ヲト定ス
ルカ如キハ必ス之ヲ父母ノ審判ニ委託セサル可カ
ラス○子女ノ結婚ノ年齢ハ宜シク之ヲ二期ニ分ツ
可シ乃チ其第一期ニ在テハ父母ノ承諾ナキハ其
婚姻ヲ止ムルニ足ラシメ第二期ニ在テハ父母已ニ

民法論
卷之六
三
何日
藏

之ヲ止ム可ラスト雖モ尚ホ數月ノ間其婚期ヲ遷延
セシムルノ權ヲ有セシメ而メ此際ニ於テ父母ヨリ
諄々其利害ヲ説諭セシムルヲ佳シトス
歐羅巴洲中敢テ其制度ノ懿美ナルニ及フナキ邦
土英ニ於テ一種ノ風俗ノ存スルアリ即チ未成丁ノ
人ヲレテ父母ノ承諾ヲ得サレハ婚姻ノ契約ヲ結フ
能ハサルモ然モ若シ其偕老ヲ契ラシト欲スル所ノ
二人相伴フテ逃亡シ百里ノ行程ヲ經過シ一小流ヲ
渡リ一小岡ヲ超ヘ纜カニダグリーン村^{英國ノ境ヲ離}
ノ一村ナリ^{蘇國ノ境ニ入レハ其法律ニ從テ婚姻ヲ}
為シ得ヘキヲ云フ蓋シ蘇國ノ法律ハ英國ニ比スレハ

民法論
卷之六
三
何日
藏

甚タ寛裕ナリニ違スルヲ得ハ則チ命運吉利ニシテ
ルモノナリ能ク其志願ヲ違スルトシ直ニ邂逅スル路人ヲ要シ
テ其何等ノ情實ナルヲ吐露スルヲナク以テ已レ等
ノ証人トナラシメ之ニ據テ其婚姻ノ盟約ヲナスモ
而モ其婚姻ハ法律ニ適シタルモノト為リテ父母ノ權
カヲ以テ之ヲ消除ス可ラサルナリ今日ニ至ル迄此
特准異俗ヲ存シテ廢セサル所以ノモノハ射利ノ必
年ヲ鼓舞スルニ出ルカ抑又父母ノ權利ヲ減削セ
カ為メカ或ハ門戸相對セサルノ婚姻ヲ玉成シテ怨
女曠夫ナカラシムルノ秘術ナル乎記者ノ得テ知ル

町ニアラサルナリ 幾人ノ間ニ之ヲ結合スヘキヤ

第六題

婚姻ノ契約ハ果シテ幾人ノ間ニ成ルヘキヤ之ヲ約
言スレハ「ポリゲミ」ナルモノ一夫數婦ヲ娶リ、或ハ一婦數夫ニ嫁スルヲ
云ハ果シテ寛恕シテ禁止スルヲ要セサルヤ○抑
「ポリゲミ」ナルモノニ偏復ノ別アリテ一夫ニシテ
數婦ヲ娶ルヲ「ポリジニヤト」云ヒ一婦ニシテ數夫ニ
嫁スルヲ「ポリアンドリヤト」云フ此二者ハ皆ナ偏制
ニ屬スルモノナリ
問フ一夫數婦ヲ娶ルノ制ハ果シテ事實ニ弊害アリ

ヤ將タ便益アリヤ曰ク此問題ニ利益アリトノ答辭
 下スヘキハ全ク特殊ノ事情アルニ由ルカ或ハ一
 時經過ノ景況アルニ出ルモノナリ譬ヘハ其妻久シ
 ク病蓐ニ卧スヲ以テ閨門ノ樂趣ヲ受用シ能ハス或
 ハ航客速商ノノ職業ノ為メニ一地ニ定居シ能ハサ
 ルモノ、孤枕ノ寂寥ヲ慰ムルカ如キニ過キスシテ
 其一般ノ弊害タルノ昭々乎トシテ明晰ナルハ固ヨ
 リ言ヲ須サル所ナリ
 故ニ此惡制ニ因テ男子ノ為メニハ時トシテ其利益
 タルヲ得ヘシト雖モ然モ一人ノ男子ノ其利益ニ

浴スルカ為メニ二人ノ婦女ノ利益ヲシテ減損セシ
 ムルヲアルヲ免レサレハ斷シテ女子ノ為メニハ之
 ヲ有害無益ノモノト謂ハサル可カラス
 第一 此惡制ヲ許容スルハ其弊ハ忽チ貧富不平
 ノ大害ヲ增長セシムルカ故ニ夫ノ素封家ノ如キ已
 ニ其富財ヲ以テ自餘ノ人民ヲ壓倒セシモノハ此惡
 制ニ依テ益其勢焰ヲ熾盛シ遂ニ底止スル所無カル
 ヘシ何トナレハ貨財ニ富メル所ノ男子ハ恣ニ貧家
 ノ女ヲ娶リテ自由ニ籠絡ノ計ヲ為シ他ノ男子ノ希
 望ヲ杜絶スルモ其女ハ數人ニシテ一夫ニ事エサル

能ハサレハ此惡制アルカ為メニ終ニ宜稱ノ男子ニ
 嫁シテ一夫一婦ノ歡樂ヲ受領シ能ハス到底内外恣
 女曠夫ノ多キニ堪サル可キヲ以テナリ
 第二 大ニ一家族ノ和平ヲ擾亂スヘシ夫レ一夫ニ
 シテ數婦ヲ占有スルハ妒忌敵視ノ心情傳ヘテ子
 女ニ及ホシ異腹ノ子女迭ニ其母ヲ戴テ旗鼓相當リ
 各自ノ權利ヲ保護センカ為メニ苦闘毒戰スルニ至
 ラン且其父ハ愛汎クシテ情專ラナラサルカ故ニ諸
 子ニ孝敬ノ心ナク各腹ノ子女皆チ其父ヲ視テ已カ
 仇敵ニ左祖スルノ人ト為シ縱令父ノ行事ヲシテ好

誼ノ心ニ出テ嚴正ノ意ニ由ラシムルモ其偏執ノ心
 ヲリ遂ニ其趣意ヲ領得スルヲ能ハサレハ百事百物
 悉ク之ヲ愛憎ノ不平ニ歸セスンハアラサルナリ○
 一家和ヲ失シテ日ニ鬪争ヲ事トスル欺ノ如クナレ
 ハ之カ父タル者ハ必ス彼此ノ中ニ愛憎スル所ノモ
 ノヲ生シ其所愛ハ姑息嬌養ニ流レ其所憎ハ嚴厲不
 慈ニ過キ遂ニ子女ノ教育ヲシテ那ノ一方ニ在リテ
 モ之ヲ領得スルヲ能ハサラシムヘシ○東洋ノ諸邦
 ニ於テ此惡制アルモ能ク平和安寧ト並行シテ毫モ
 相軋ルヲナキハ獨リ奴隸制ノ人類ヲ獸視スルニ依

リ之ヲ維持スルアルヲ以テナリ譬へハ一個ノ大害アルモ他ノ諸害ニ蝕食セラレテ其顯跡ヲ藥フカ如ク又淑慝ヲ問ハス全一ノ羈輅ヲ施ス片ハ却テ平和ノ現像ヲ得ルモノニ似テ決シテ其制ノ懿美ナルニ因テ然ラシムルニ非サルナリ
 此惡制アル片ハ數婦競フテ郎夫ノ歡心ヲ買ント欲シ百方嫵媚ノ術ヲ盡シテ只管他人ノ寵愛ヲ奪フ下ノマ之レ務ムルニヨリ適以テ男子ノ威權ヲシテ增長セシムルニ過キサレノミ蓋シ其心邪惡ニシテ柔弱ヲ扶クルノ道ヲ識得セス專ラ婦女ノ順從ナル程

度ノ益甚シキヲ以テ益良シトスル者ニ於テハ之ヲ最上乘ナル美舉良圖トナス可キモ苟モ具眼ノ士ニ至テハ必ス婦女ノ品位ヲ上進セシムルヲ以テ貞靜幽淑ノ婦徳ヲ得ルノ元行ト為シ社會ノ歡樂ヲ増スヘシト為シ又婦女ノ中饋ノ政ヲ任スルヲ以テ一家康福ノ基ナリトスルナル可シ然ラハ則チ此制度ノ有害無益ナルヤ固ヨリ自然ノ理ナリト謂ツテ可ナリ
 此他一婦ニシテ數夫ニ事フモノ及ヒ男女齊シク數夫數婦ヲ得ルモノアリ此二制ニ縷々ト論シ到ルハ

須要ニアラサル可シ且又前文ニ於テ既ニ一夫數婦ヲ娶ルノ弊害ヲ論シタレハ更ニ風俗品行ノ由テ立ソ處ノ真理ヲ罄クサ、ルモ亦其惡制タルハ歎々ヲ待タサル所ナリ

第七題

ソノ儀式如何

婚姻ノ契約ニ嚴格ナル儀式ヲ要スルハ左ノ二件ノ目的ヲ達センカ為メニシテ即チ其一ハ男女ノ真意ニ出テタル承諾ニ相違ナキコトヲ表明シ併セテ其配偶ハ法律ニ背戾セサル旨ヲ保証スルニ在リ其二ハ婚姻ノ事ヲ世人ニ通知セシムルニ在リ而シテ又婚

禮ノ時ニ臨テ若シ能ク夫婦タル者ニソノ受ケ得ヘキ權利ト法律上ニ於テ履行スヘキ義務トヲ承知セムルヲ得ハ更ニ佳良ノ事ナル可シ

各國皆ナ婚姻ヲ視テ一生ノ大禮ト為シ嚴格ナル儀式ヲ行フハ球上、所口トシテ然ラサルナシ是レ此契約ノ貴重ナルコトヲ人心ニ銘鑲セシムルニハ固ヨリ耳目ヲ感動スルニ足ルヘキ儀式ナカル可ラサル所以ナリ

蘇格蘭ノ法律ハ單簡輕易ニ過テ更ニ儀式ヲ要セス若シ男女手ヲ携ヘテ証人ノ面前ニ到リ文、其趣意ヲ

陳述スル片ハ即チ法律上ニ於テ其婚姻ヲ承諾スヘ
 キモノトセリ然ルヲ以テ英國ノ青年少女ニシテ其
 父母或ハ後見人ノ檢束ヲ免レテ自主自由ノ身タル
 ヲ待ツニ堪エサルモノハ逃亡シテ彼國ノ邊境ナル
 ケントナト、グリニ村ニ於テ倉卒ノ婚禮ヲ行フモノ
 甚タ多シトス

此儀式ヲ執行スルニ方テ二弊ノ必ス避ケサル可ラ
 サルモノアリ即チ其一ハ已ニ男女ニ真意ノ承諾ア
 リテ而メ二人俱ニ世事ニ通スルノ知識アルニ故ラ
 ニ繫縛ナル規則ヲ設ケテ婚姻ヲ妨クルモノ是レナ

リ其ニハ婚禮ニ參與スヘキ人ニ其權利ヲ濫用セシ
 ヲ或ハ之ヲ不良ノ目的ニ施サシムル是レナリ
 各國ノ婚禮ヲ見ルニ未タ之ヲ行ハサルニ先ツテ寺
 院ニ於テ天佑ヲ請フノ名ヲ以テ久シク丹墀ノ下ニ
 肅立セシメ敢テ神机ニ進ムヲ許サ、ルモノ多シ
 按規則ノ繫縛 是レ徒ニ心意ヲ攪亂スルノミニテ他
 ナルニ喻フニ何ノ功用力之レアルヤ實ニ無益ノ事ト謂ハサル
 ヘカラス故ニ此等ノ如キハ速カニ廢止スルノ却テ
 優レルニ如カサルナリ○亭國フレデリッキノ法律ニ
 於テモ亦全様ノ苛制アルヲ見タリ而メ簡易明白ヲ

民法論綱 卷之六 尾

以テ眼目ト為シ男女ヲシテ一目ノ下ソノ義務ノ所
在ヲ知ラシメ併セテ以テ已婚未婚ノ別ヲ判断シ得
可キハ夫レ唯英國ノ法律ナルカ

民法論綱卷之六大尾

明治九年二月十日版權免許

東京富士見町四丁目十一番地

出版人

何禮之

馬喰町二丁目

嶋村利助

芝三島町

山中市兵衛

發兌

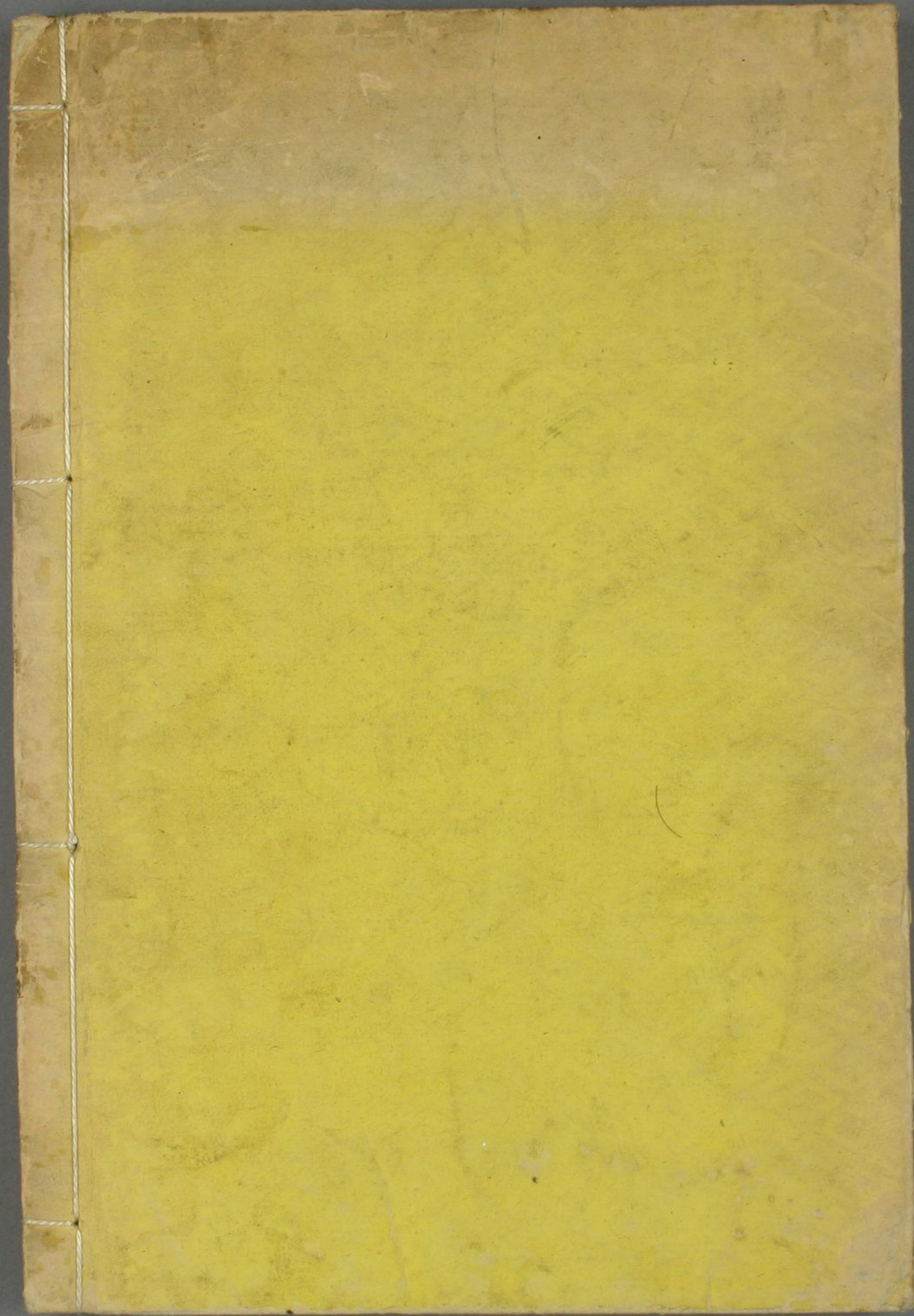
日本橋通三丁目

丸家善七

書肆

南傳馬町二丁目

穴山篤太郎



セ、ベヌザム著
何禮之譯

民法論綱

明治九年
三月 刺

何氏藏梓

